注意①　解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。
注意②　字数が指定されている設問では、「、」や「。」も一ます使いなさい。

1

朝鮮貴族の娘で十三歳の「おたあ」は、三歳で日本に連れて来られ、徳川家康の伏見城に暮らしている。次は、家康が、朝鮮の使いである惟政と会談し、「おたあ」と阿茶局（家康に仕える女性）を同席させている場面である。「おたあ」は惟政の話す朝鮮の言葉が分からず困惑している。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

すると家康が聞いた。
「おたあ、そなたが望むなら、故国に帰ってもよいが、どうする？」
予期していた質問だったが、思いがけないほど言葉がわからず、とうてい帰れる状況ではない。
なおも黙っていると、一同が気の毒そうな顔になった。阿茶局が代わって答えた。
「せっかくの仰せですが、急なことなので、戸惑っているのでしょう。後で、もういちど私から聞いてみましょう」
だが家康も首を横に振った。
「いや、無理は申さぬ。それよりも、ⓐあれを見せてやろう」
小姓に命じて、床の間に置いてあった木箱のひとつを、近くに持ってこさせた。ⓑ重厚な塗箱だった。
「おたあ、見よ。これは惟政どのが、朝鮮土産としてくれた品じゃ」
塗箱の中からは、何段にも重なった平箱が出てきた。中は細かく仕切られており、四角い小さな金属片が整然と並んでいる。
家康が数本を取り出して、おたあと阿茶局に手渡した。
「これは活字と申してな、ひとつひとつに漢字が刻まれている。必要な文字を組み合わせて、紙に刷るのじゃ。これが活字を用いた儒教の本だ」
家康は一冊の本を開いてみせた。そこには明らかに書き文字とは異なる漢字が並んでいた。
「これを使って刷れば、一枚ずつ版木を彫るよりも手間がかからぬ。日本にはない優れた技じゃ」
おたあは手の中の小さな金属片を見つめた。阿茶局も、まじまじと活字を見て言う。
「これは面白うございますな。のう、おたあ」
おたあはかろうじてうなずいたが、母のことから頭を転じたくもあり、ふと思い出したことを話した。
「そういえば、似たような本を見たことがございます。文字は、まるでちがいますが、小さな判子のような南蛮文字を、組み合わせて刷るとかで」
それは子供のころ、小西行長の宇土城で教えの手引きにしていたドチリナ・キリシタンという本だった。内容は平易な日本文だが、ローマ字表記になっていた。
いろは四十八文字を覚えるよりも、ＡＢＣ二十六文字を覚える方が容易で、いったん覚えてしまえば、だれにでも読める。
ＡＢＣ二十六文字の活字と印刷機は、今から二十年以上前の天正年間に、日本に持ち込まれたと、おたあは聞いている。ただ小西の思い出は、家康の前では話しづらく、詳しいことは黙っていた。
通詞が朝鮮語で伝えると、惟政が何か答え、また通詞が訳した。
「南蛮の文字は数が少ないので、活字印刷が広く行なわれていますが、活字を最初に作ったのは朝鮮です。今回、持ってきたのは、主だった漢字だけですが、まだまだ膨大な数の活字があります。大きい文字や小さい文字も」
朝鮮の活字文化は、明国よりも先んじているという。
おたあは活字を家康に返しながら、珍しく素直な気持ちを口にした。
「私の生まれた国で、こんな技があるとは、なんだか誇らしいような心持ちになります」
漢字は数限りなく存在する。それを活字にしようという熱意に頭が下がった。おたあの言葉を、通詞が惟政たちに伝えると、一同が顔をほころばせた。
（中略）
「薬やら活字やら、日本が及ばぬものが、いろいろある。朝鮮から連れてこられた捕虜たちは、気の毒ではあったが、日本にない文化や技をもたらしてくれた」
家康は、しみじみと語った。
「朝鮮の兵は弱いとⓒ侮る者がいるが、何もかも日本が優れているわけではない。双方のよさを認め合おうと、さっき話したところじゃ」
一同がうなずき、いっそう［ⓓ］とした雰囲気が広がった。
おたあは日本に連れてこられて以来、幼心にも敗北の悔しさを、ずっと引きずってきた。負けたということは劣っていたのだと、思い込んでいた。
だが家康が優れた国だと認めている。まして、それを懸命に、おたあに伝えようとしている。そんな態度が好ましく、自分の故国への思いが、これほど強いのも意外だった。
奥に戻ってから、阿茶局が言った。
「よき方々と出会えて、よき物を見せていただき、ありがたいことでしたね」
おたあは黙っていたが、ⓔ少しだけ家康に心を開けた気がした。

出典　植松三十里『家康の海』

（注）そなたが望むなら…「おたあ」は、豊臣秀吉が朝鮮に侵攻した際、母親から引き離され、日本に連れ去られた。
小姓…身分の高い人のそばに仕えて雑用を担う者。
版木…印刷のために文字などを反対向きに彫った板。
小西行長…「おたあ」は日本に来てから大名の小西行長に育てられていたが、行長が関ヶ原の戦いで敗れ、「おたあ」は家康に引き取られた。
明国…このころの中国の王朝名。

①　――の部分ⓑ・ⓒの漢字の読みを書きなさい。

②　「ⓐあれを見せてやろう」とあるが、家康が木箱の中のものを見せた目的について説明した次の文の［　］に入れるのに適当なことばを、「活字」ということばを使って、二十字以内で書きなさい。
朝鮮には、［　］ことを「おたあ」に教えるため。

③　「おたあ」について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア　故国の朝鮮には、日本に敗北したふがいない国という思いはあるものの、懐かしさを抑えられず帰国を願っている。
イ　聡明で、自分のおかれた環境を理解しているため、周囲を観察し、普段は本心を表に出さないように振る舞っている。
ウ　連れ去られてきた身でありながら大事に育てられたことで、気さくな人間に成長したが、強い疎外感を内に秘めている。
エ　生い立ちの複雑さから、忍耐強く冷静だが、育ての親である行長のことに触れられると感情的な行動に出てしまう。

④　［ⓓ］にあてはまることばとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア　威風堂々　　イ　虎視眈々
ウ　清廉潔白　　エ　和気藹々

⑤　「ⓔ少しだけ家康に心を開けた気がした」とあるが、「おたあ」がこのように変化した理由を説明した次の文の［　］に入れるのに適当なことばを、三十五字以内で書きなさい。
劣っていると思い込んでいた自分の故国を、［　］感じたから。

⑥　この文章の表現の特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア　「せっかくの仰せですが」という表現は、「おたあ」への配慮を示す家康への感謝を示しつつ、混乱する「おたあ」への思いやりも込められ、機転の利く阿茶局の有能ぶりが示される。
イ　「そういえば」という表現は、沈黙していた「おたあ」が、阿茶局の自然な誘導で楽しい気分に変わり、周囲の人々のためにも何か発言しようと気遣った様子を印象づけている。
ウ　「朝鮮から連れてこられた捕虜たちは、気の毒ではあった」という表現は、本音ではなく、目の前にいる朝鮮の使者たちに配慮した発言であり、家康のしたたかさが読み取れる。
エ　「おたあ」の言葉に「一同が顔をほころばせた」という表現は、使者たちが喜んでいる様子を表すとともに、「おたあ」が今後の日本と朝鮮の外交に貢献することを暗示している。

受験番号
算用数字

2

次の文章は、人類学者の石毛直道が書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

礼法や茶室での作法に見られるように、日本の伝統的な立居振舞は「ⓐ型」を重視する。型を完全にマスターしたのち、非常に才能のある者だけが、「ⓑ型やぶり」をして自由な自己表現をすることが許されるが、型やぶりは非難の対象とされることがおおい。そのかわりに、「型どおり」にすれば、誰でもが恥をかかずに一人前にふるまうことが可能なのである。きまりきった型の枠内でふるまうかぎり、皆が平等にあつかわれたのだ。

規範としての約束事が型である。あいさつ、手紙の書き方、身のこなし方など、社会的コミュニケーションの場面で型が機能するだけではない。型にのっとってふるまうことは、日本文化を特徴づける表現様式であった。したがって、伝統的な芸術にも、型の観念がかかわってくる。

伝統芸能や、武道のトレーニングは、型を覚えることである。生け花の稽古も型を習うことからはじまる。天、地、人という三本の高さのちがう枝を花型の骨組として、生け花は構成される。この三本の役枝のはたらく位置によって、漢字の楷書、行書、草書の字体になぞらえた真、行、草の三態に「花型」が区別される。

伝統的な日本料理は「目で楽しむ料理」としての性格がつよい。盛りつけの美学が重視されるのである。左右対称形に料理を盛るヨーロッパや中国に対して、日本料理では奇数を重んじる盛りつけをしてアンバランスの美を追究する、料理に季節感を表現するなど、日本文化独自の美学を懐石料理に読みとることができる。それを見た外国人が「これは芸術家の作品だ」と感嘆したりするが、板前にしたら、伝承された型にしたがって仕事をしているだけのことである。型をまもってきちんと修業したら、職人芸としての芸術性は、誰でも表現することができるのだ。

能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、舞踊など、古典芸能といわれるものは、型の芸術である。舞台芸術でクライマックスのときの一瞬静止したポーズ、すなわち大見得をきったときのⓒスガタが型であると思われがちである。しかし、それは型の一部分にすぎない。舞台での劇的な見せ場をつくるための、一連の様式化されたしぐさや、せりふの口調などによる人体表現が型である。別のいい方をしたら、役者の見せ場でのパターン化された演出のしかたである。それが、役者にとっての見せどころであり、ⓓその様式を心得た観客にとっての見どころである。日本の古典芸能は様式の美学によって成立している。

演技者は、はじめは先輩に教えられた型にしたがって演技を学ぶ。そのうち、才能のある者は伝承された型をさらに洗練させ、あたらしい型を創出する。その「型やぶり」が好評であると、誰々の型という名で次代に継承されるのだ。天才的な演技者にとって、型は「型やぶり」をするために存在するものかもしれない。

欧米をモデルとしたⓔ世界の近代化という現象は、個人のふるまいの自由度をたかめるかわりに、形式主義を排除する方向をたどってきた。それは、旧秩序を破壊することによって近代化が達成できるという理念が世界的潮流であったことをしめす。

日本における型の文化も、前近代的な形式主義として非難された。個性の表現や独創性に欠けたマンネリズムだとされたのである。その結果、様式の美学が健在なのは古典芸能や武道、神事の儀式などの分野に限られてしまった。それらは伝統文化なので、保存する必要があるとの理由からである。保存の対象になると、文化財とおなじく現状変更が困難となり、「型やぶり」をすることがむずかしい。また、型を知らない観客がおおくなったので、「型やぶり」をしても評価されなくなってしまった。

深刻なのは、日常生活における型の文化がⓕソウシツしたことである。たとえば手紙。心にもない文字の羅列でも、時候のあいさつからはじまる「型どおり」の文例にのっとれば、誰でも手紙を書くことができた。しかし、第二次大戦後の自由作文運動あたりで、形式的な文章は排除されるようになった。個性を発揮する必要のない商業用の書簡などをのぞくと、形式にこだわらず自分の心情を文章につづるということになると、表現力のゆたかな人でないと手紙を書くのがめんどうになり、電話やメールですますようになったのである。

伝統的な食事作法は、正座をして、銘々膳にむかって、箸だけを使って食べることを前提としている。イスに腰かけ、ダイニング・テーブルで、箸とナイフやフォークも併用し、和洋中の料理がならぶ、現代の家庭における食事作法は誰も教えてくれない。現代生活における型は、いまだ創出されていないのである。

出典　石毛直道『道草を食いながら――出会った人びと、食文化』

（注）懐石料理…茶の湯の席で、茶をすすめる前に出す簡単な料理。
マンネリズム…一定の形式や技法が繰り返され、新鮮味がないこと。
自由作文運動…諸説あるが、作文の教育において、素直にありのままに文章を書くことによって真実を発見するという大正期以来の理念が戦後も基調となったとされる。
銘々膳…一人一人に出す食膳（料理を乗せた台）。

① ――の部分ⓒ・ⓕを漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「ⓐ型」とあるが、型の説明や型に対する筆者の考え方として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　武道や生け花、料理などの場面で生まれ、選ばれた人間に伝承されてきたもので、型を習ったり型を守って仕事をしたりすることで日本文化独自の美学を表現することができる。

イ　日本で伝統的に重視されるきまりきった枠のことを指し、その枠の中でふるまう限り、非難をされたり恥をかいたりすることがなく、枠外にいる者からは敬意を払われる。

ウ　伝統的な芸術においてはもちろん、日常生活など、日本人の社会的なコミュニケーションの場面で必要とされた枠組みであり、日本文化を特徴づけてきた表現様式と言える。

エ　型の芸術に含まれる古典芸能は、舞台芸術におけるクライマックスのときの、一瞬静止したポーズで表現される様式の美学とそれを心得た観客によって成立している。

③ 「ⓑ型やぶり」とは、どうすることですか。次の文の［　　］に入れるのに適当なことばを、「自己表現」「創出」ということばを使って、三十五字以内で書きなさい。

天才的な人が、［　　］すること。

④ 「ⓓその」と品詞が同じものは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

庭に**ア**小さな花が咲いた。**イ**寒さに耐え、花は**ウ**白く、**エ**たおやかにゆれていた。

⑤ 「ⓔ世界の近代化という現象」によって起こったことを説明した次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを、文章中から［X］は十九字で抜き出して最初の五字を、［Y］は五字で抜き出して書きなさい。

世界の近代化現象によって、日本においても、形式主義は［X］だと非難される風潮が生まれた結果、［Y］とされた伝統文化以外は排除され、日常の型の文化が衰退した。

⑥ 本文の内容を説明したものとして最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　「型やぶり」は一般には批判されるが、優れた芸術家や評論家に評価されると名前が付けられ、次代に継承される。

イ　日本料理の盛りつけは、その美が外国人に賛美されるが、日本では芸術性をそぎおとした技術として認識されている。

ウ　手紙の「型どおり」の文例は、メールの発達によって覚えなくても書けるようになり、文例を覚える人がいなくなった。

エ　伝統的な日常の型が消えた結果、手紙文化は表現力のある人を除いて廃れ、家庭の新しい食事作法も定まっていない。

3

次の文章は、日本における鰹の文化について書かれた文章である。これを読んで、①～④に答えなさい。

山口素堂の有名な句、

ⓐ目には青葉　山郭公　初鰹

は、初夏の爽やかさや躍動感が見事に凝縮されている。生きの良い初鰹は、夏を迎える季節とピタリ一致する感があるからだろう。鰹は、黒潮に乗って北上する魚で、二月から三月頃に八重山・宮古海域を出発し、土佐沖を経て四月から五月頃に相模湾付近を通過して、七月から八月頃に三陸沖に達する。五月の鰹は、鰯をたっぷり食べて四キロくらいまで太っており、脂質が三パーセント程含まれていて旨いので、江戸っ子の人気を呼んだのだ。もっとも、脂っこい物を好むようになった現代人には、初鰹よりも、九月頃に三陸沖から南に向かって回遊する「下り鰹」の方が人気らしい。下り鰹には脂質が一〇パーセントも含まれており、脂身は初鰹より多いためだ。

ところで、江戸の川柳には、

つれづれに　鰹は食ふな　鯉を食へ

初鰹　なに兼好が　知るものか

と、『徒然草』を書いた吉田兼好に当てつけた句がある。ⓑなぜ、江戸っ子たちは、兼好を目の敵にしたのだろうか。

それは、兼好が『徒然草』第一一九段で、鎌倉の海から揚がる鰹のことを地元の漁師に、

この魚、おのれら若かりし世までは、はかばかしき人の前へ出づること侍らざりき。頭は、下部も食はず、切りて捨て侍りしものなり

と言わせ、自分の意見として、

かやうの物も、世も末になれば、上ざままでも入りたつわざにこそ侍れ

と書き付けているためである。兼好にとっては鰹は下賤の魚であり、それが高貴の者の食事にまで入り込んできたのを「世も末」と嘆いたのだ。その前の第一一八段で、

鯉ばかりこそ、御前にても切らるるものなれば、やんごとなき魚なり

と、鰹より鯉に軍配を上げている。兼好にとっては、鰹で象徴される鎌倉（東）文化よりも、鯉で象徴される京文化のほうが好ましかったのだろう。江戸っ子から見れば、兼好は初鰹の味がわからない唐変木、というわけだ。芭蕉の先の句も、江戸っ子の肩を持つという態度表明、と解釈できないでもない。それにしても、江戸の川柳作家は『徒然草』を知っていたわけで、江戸川柳を侮るべからずと言うべきだろう（『「徒然草」の歴史学』）。

歴史を調べてみれば、兼好は間違っていたことがわかる。鰹は、古代から食用として使われており、万葉時代から貴族階級に供されていたからだ。事実、「藤原京木簡」や「平城京木簡」そして「養老令」に、鰹やその加工品が「調（律令制下の税）」として納められていたことが記録されている。そこには「堅魚」と書かれているが、「堅く乾燥させた魚」でカツオと読んだらしい。後に、堅と魚を合体させて鰹と書くようになった。『万葉集』の高橋虫麻呂の長歌の冒頭は、

春の日の　霞める時に　墨吉の　岸に出て居て
とをらふ見れば　古の　ことそ思ほゆる　水江の
が　鰹釣り　鯛釣り誇り　七日まで　家に来ずて
過ぎて漕ぎ行くに　海神の　神の娘子に　たまさかに　い漕ぎ向ひ　相とぶらひ……（巻九・一七四〇）

で、有名な浦島伝説を詠んだものである（『私の万葉集』3）。ここにあるように、浦島は漁に出て鰹や鯛を釣り上げているうちに海の境を越えてしまい、そこで海神の娘と出会ったという物語である。私たちが知っている、浦島が亀を助けて竜宮城へ招かれる話は、少なくとも万葉時代にはなかったのだ。仏教的な動物報恩譚が付け加わったのは、室町時代の御伽草子あたりらしい。

この歌に鰹釣りがある。鰹は釣れ始めるとどんどん釣れることが知られており、夢中になって釣っているうちに海に迷ってしまったとする物語の発端は極めて合理的である。大量にとれると、それを干して鰹節にすることは万葉時代には始まっていたと想像できる。さらに、鰹鮨・煮鰹・鰹煎汁・荒鰹などにして、平安時代の貴族階級は鰹料理を楽しんでいたらしい。鰹煎汁とは鰹を煮立ててとった出し汁のことで、鰹は既に調味料としても使われていたのだ。であれば、兼好は厨房でどんなふうに料理を作っているか知らなかったのだろう。あるいは、刺身やタタキとして生の鰹を食べる習慣が鎌倉にあって、兼好はそれを嫌ったのかもしれない。いずれにしろ、鰹は日本古来から重要な海の幸であり、江戸っ子が抗議しているように、兼好が文句を言う筋合いではなかったのだ。

出典　池内了『清少納言がみていた宇宙と、わたしたちのみている宇宙は同じなのか？――新しい博物学への招待』

（注）山口素堂…江戸期の俳人。
八重山・宮古海域…沖縄本島から南西に位置する海域。
土佐沖…高知県の南の海域。
相模湾…神奈川県西部の太平洋に開けた湾。
はかばかしき人…しっかりした身分の人。
下部…召使い。唐変木…分からず屋。
芭蕉の先の句…初鰹の活きの良さをめでた、「鎌倉を　生て出けむ　初鰹」の句を指す。
とをらふ…揺れ動く。
動物報恩譚…動物が人間に恩返しをする話。

①「ⓐ目には青葉　山郭公　初鰹」の句の説明として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　「青葉」と「郭公」は「初鰹」の味覚を引き立てる役割である。
イ　季語は「青葉」「郭公」の二つがあり、初夏を表している。
ウ　倒置法を用いることで、畳みかける中にも爽やかさがある。
エ　体言で三回切れることで、それぞれの言葉の印象を強めている。

②「ⓑなぜ、江戸っ子たちは、兼好を目の敵にしたのだろうか」とあるが、その理由について説明した次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを、文章中から［X］は十七字、［Y］は十三字で抜き出し、それぞれ最初の五字を書きなさい。

『徒然草』の中で、鰹を下賤の魚として、［X］ことを憂い、他の魚のほうが貴いとする兼好のことを、［Y］であると感じたから。

③　本文の内容を説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　五月頃に相模湾付近に到着する鰹は、一年のうちで最も脂質が多く旨いので、江戸っ子の人気を呼んだ。
イ　木簡や「養老令」に「堅魚」とあることから、その時代、鰹は乾燥させた鰹節の状態でのみ使われていたとわかる。
ウ　『万葉集』の長歌に見られる浦島伝説は、鰹釣りの特性を踏まえた極めて合理的な物語の発端となっている。
エ　貴族の邸宅では、鰹を使ってどんなふうに料理するかは秘密にされていたため、兼好は鰹の調理法を知らなかった。

④　中学三年生の夏美さんは、この文章を読んで次のような感想文を書いた。［Ⅰ］、［Ⅱ］に入れるのに適当なことばを、［Ⅰ］は文章中から十字で抜き出し、［Ⅱ］は十字以上、十五字以内で書きなさい。

日本では鰹は［Ⅰ］であり、刺身だけでなく鰹節など、加工品や調味料などの形で広く食生活を支えてきたことを改めて感じました。そして、そのことが俳句や川柳などの形で伝わっているところが面白いと思いました。文章中に、鯉が京文化を象徴し、［Ⅱ］とあるように、特に江戸の人には、鰹は思い入れの強いものであったことを学びました。

受験番号
算用数字

4

四人の中学生が、水産物の消費をテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

由奈　今日は水産物の消費について話し合うよ。日本は昔から魚介類を食べて来たけど、消費量はどう変化してるのかな。

礼央　【資料Ⅰ】は、農林水産省の調査で、食用魚介類と肉類の消費量の変化を示しているよ。これを見ると、［X］ことがわかるよ。そこから考えると、日本人の食生活が変わってきたと言えそうだね。

翔太　うん。食の好みが変化しているとは聞くね。魚が苦手な人が増えているんだろうか。

晴香　【資料Ⅱ】を見て。私たちの中学校の保護者を対象に食生活について行ったアンケート調査の一部だよ。これを見ると、約９割の家庭は、魚料理が週１～２回以下だね。

由奈　想像以上に少ないね。魚は健康にもよいのに家庭で魚料理が少ないのはなぜだろう。

礼央　いちばんの理由は家族が肉を求めるからだね。わかるよ。ぼくの場合、魚料理は肉料理より量が少なく思うんだよね。

晴香　なるほど。二番目の理由の値段が高いからにも関係するけど、魚の種類によっては、同じ金額なら肉の方がたくさんの量を買えるから、それなら肉料理にしようって思うのかも。

翔太　さんまの価格高騰をニュースで見て驚いたことがあるよ。他に、魚は骨があって食べにくいことを理由に挙げている人が四割ほどいるよ。みんな、骨のある魚をきれいに食べられる？

礼央　僕は苦手だな。お寿司は骨がないから好きだけど。

晴香　私もあまり骨を上手に取れない。あとは調理方法がわからないという理由があるね。たしかに魚をさばくのは難しいよね。祖母は魚をさばけるけれど、祖父が魚を釣って来ると少し困っているみたい。うろこが台所にとびちるから。

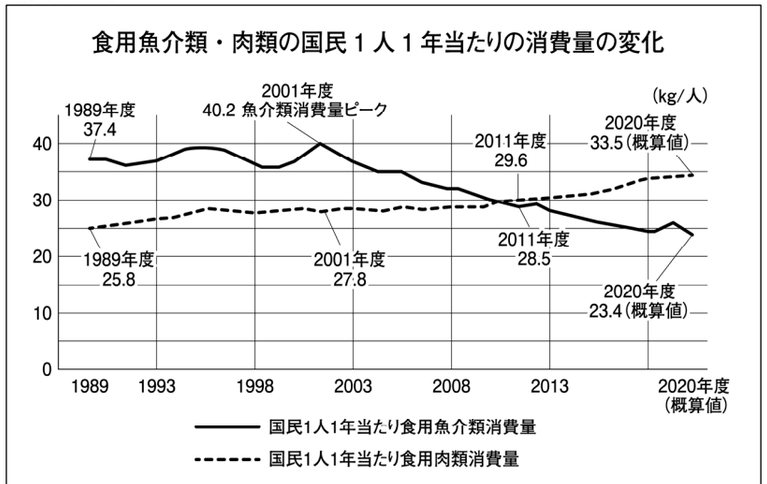
由奈　魚料理は調理や後片付けが大変だよね。忙しかったり、単身世帯だったりしたら、お刺身（さしみ）を買ってくるくらいしかできないかもしれないね。

翔太　魚介類の消費が減っているのは、そういう暮らしの変化に応じきれていない面があるからかもしれないね。

礼央　つまり、現代の暮らしに対応した取り組みを行えば、魚介類の消費が増えるのかな。

晴香　【資料Ⅲ】を見て。魚の消費量を増やす取り組みを行う場面が書かれているよ。どの場面でどんな取り組みを行えば魚の消費量が増えるか、考えてみようよ。【資料Ⅲ】の中で、私は［Y］での場合を考えてみるよ。例えば、［Z］

【資料Ⅰ】

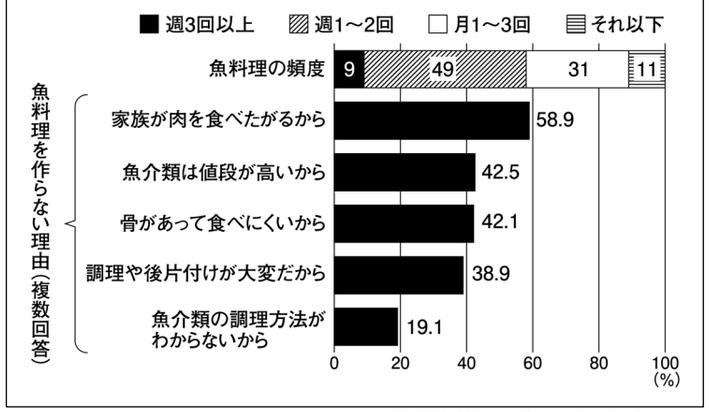


令和３年度　農林水産省「食料自給表」より作成。

農林水産省が算出する「食用魚介類の１人１年当たり供給純食料」は、「食用魚介類の１人１年当たり消費量」とほぼ同等と考えられるため、ここでは「供給純食料」に代えて「消費量」を用いる。

概算値…精密ではないが利用可能な数値

【資料Ⅱ】



保護者を対象にしたアンケート（2023 年）

【資料Ⅲ】

魚の消費量を増やす取り組みを行う場面

ア　水産加工会社
イ　スーパー
ウ　給食
エ　外食産業

---

① 「台所」とあるが、この熟語の読み方は、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　音読み+音読み　　イ　訓読み+訓読み
ウ　音読み+訓読み　　エ　訓読み+音読み

② 礼央さんの意見が論理的なものとなるために、［X］に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　国民１人１年当たりの魚介類の消費量は２００１年度をピークに年々減少し、２０２０年度はピーク時の半量以下である
イ　国民１人１年当たりの消費量は２０１１年度を境に肉類と魚介類で数値が逆転し、２０２０年度は１０kg以上の開きがある
ウ　国民１人１年当たりの肉類の消費量は、１９８９年度以来増加の一途をたどり、２０２０年度は魚介類より１０kg以上多い
エ　国民１人１年当たりの肉類と魚介類の消費量合計は、１９８９年度と２０２０年度の約三十年間で１０kg以上減少している

③ 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適当なのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア　由奈は、晴香の示した具体例を資料の言葉を用いて簡潔に言い換えたうえで、自身の考察を加えている。
イ　礼央は、調査結果について自分自身の感覚を根拠に共感する意見を述べ、他の人に同意を求めている。
ウ　翔太は、他の人の発言に同意を示したうえで、そこから導かれることをみんなに問いかけ、話し合いを広げている。
エ　晴香は、翔太の意見に対して新たな資料を提示し、資料から読み取れることを自分の考えを交えて説明している。
オ　礼央と翔太は、ここまでのみんなの意見を要約して言い換え、問題を解決する具体策を提案している。

④ 晴香さんの発言の［Y］、［Z］に入れるのに適当な内容を、Yはあなたが関心のある項目を【資料Ⅲ】ア～エのうちから一つ選んで答え、Zは**条件**に従って六十字以上八十字以内で書きなさい。

条件

1　二文に分けて書き、一文目に、Yで選んだ場面でどのような取り組みや工夫を行うとよいかを具体的に書くこと。
2　二文目に、なぜその取り組み（工夫）が有効であるのか、その理由を「なぜなら、」に続けて書くこと。